

研修に関するアンケート (報告)

旧年末に実施した研修に関するアンケート調査の結果がまとまりましたので、その概略を報告します。

準備不足のまま実施したために回収率、結果内容ともに、貧弱なものとなりましたが、今後の本格的調査の準備に参考になるような所見も少なくないと思われまますのでお届けします。

I 調査結果について

(1) 回収率

	発送	回収	率
保健所	453	205	45.2%
市町村	275	36	1.3%
計	728	241	33.1%

(2) 解答者の内訳

※職種：保健婦 104 名を筆頭に衛生監視員等15種。

※機関：保健所	7
精神衛生センター	1
予防医学協会	1
市町村	12

(3) 過去の研修について

※全体の16%は1度も研修の機会がなかった。(県11%、市町村47%)

※職種によって研修の機会が著しく偏っているような傾向が認められるが、それぞれの職種の回答率を高めて詳しく検討する必要がある。

※研修期間：1ヶ月未満 84%
1ヶ月以上 16%

※年々の研修の機会は多くなっており、特に最近5ヶ年間の回数は過去全期間のおよそ54%を占めている。

(4) 今後の研修について

※研修希望の有無

希望する	92%
希望しない	5%
回答なし	3%

※将来希望する研修課目 (全職種・多い順から)

〈理論について〉

- ① 衛生教育
- ② 成人保健
- ③ 保健統計
- ④ 小児保健
- ⑤ 母性保健
- ⑥ 疫学概論
- ⑦ 保健情報
- ⑧ 栄養学
- ⑨ 保健管理
- ⑩ 保健社会
- ⑪ 労働衛生
- ⑫ その他

ただし、職種によって順位は変動し、また設問中の例示によっても変動すると考えられる。

〈技法について〉

- ① 調査計画のたてかた
- ② 図表の作りかた
- ③ 論文のまとめかた
- ④ スライドの作りかた
- ⑤ アンケート様式の作りかた
- ⑥ リーフレットの作りかた
- ⑦ パンフレットの作りかた
- ⑧ パネルの作りかた
- ⑨ グループ研究の進め方
- ⑩ 討論のしかた

(5) 疫学調査活動・衛生教育活動の現況

※充分である 4%
不十分である 84%
回答なし 12%

※現在不十分である理由 (多い順から)

- ① 知識や技術が不足している。
- ② 組織的な取り組みがなされていない
- ③ 器具や資材が不足している。
- ④ 必要性を感じているが予算がとれない。
- ⑤ 取り組む方法がわからない。
- ⑥ ヒマがない。
- ⑦ その他

(6) 職種別回答内容

※希望する研修内容

基礎的な事項 別添1

専門的な事項 別添2

※疫学調査および衛生教育の活動内容 別添3

※収集したい情報 別添4

※必要な衛生教育 別添5

※必要な資料 別添6

※その他 別添7

別添1 希望する研修内容

基礎的な事項

(保健婦)

疫学(4) 保健管理 保健情報(5) 保健社会学(3) 環境 食生活 精神衛生(6) 栄養学 遺伝(4) 労働衛生(3) 公衆衛生行政 地区診断 社会福祉制度(2) 保健ニーズの把握 障害児保育指導 特定疾患(小児) 保健経済学 対人保健サービス(2) 母子保健業務(2) 公衆衛生事業の進め方(2) 組織育成と活用方法(5) 県内の公衆衛生の問題点(2) 水質(飲料水の改善) 合成せっけん 飲料水の基準 天水の衛生的な飲用 インスタント食品 ゼネラリストとスペシャリスト 地域での関係者とのチームワーク 仕事からくる健康への影響 健康障害とその予防・管理 公衆衛生にたずさわる者の心得(2) 公衆衛生活動をはばむもの 社会資源の活用法 関係機関との連携(2) 保健関係の予算について 予算のとり方 民間療法 公害食品 血液と病気との関係 地域の栄養状況と問題点 面接技術

(衛生監視員)

衛生教育(3) 公衆衛生(2) 疫学調査(2) 食品衛生(4) 汚水処理一般知識 細菌検査一般(2) 機械操作 排気ガス・タバコ ハブ 献血 微生物 化学の基礎 一般事務(2)

(技 師)

公衆衛生概論(3) 細菌全般(2) 衛生教育(2) 食品の安全性試験 そ族昆虫に対する市町村の体制 大気汚染に関するもの 沖縄県における疾病状況と対策 風土病について 公衆衛生施設見学

(臨床検査技師)

免疫血清検査法 心電図 細菌学 地域衛生 推計学 統計学 成人病 成人保健 学校保健 労働衛生 疫学概論 測定機器に関する一般的事項 疫学的統計資料のつくり方 文献のひき方 論文のかき方

(放射線技師)

撮影技術 電離・放射線測定法 医療監視 X線技術 R I 技術 超音波技術

(精神衛生相談員)

沖縄の公衆衛生のあゆみ 公衆衛生の動向 行政法規に関すること 衛生教育および地域社会との関わりについて 地域精神衛生 調査研究していく上での基礎的な技法について 精神の発達と人格の形成 学校教育と精神衛生(2) 家庭教育と精神衛生 職場における精神衛生 小児の精神衛生

(栄 養 士)

公衆栄養学 衛生統計 保健情報学 疫学概論 食品添加物等食品公害 環境汚染 母子栄養

(医 師)

保健情報学 コンピューター解析 統計学

(防 疫 係)

(統 計 係)

衛生統計に関する知識

(歯科衛生師)

公衆衛生概論 衛生行政概論 遺伝セミナー 栄養学 心理学 歯科関係薬物及び材料の公害との関係 母子保健(2)

(歯 科 医 師)

成人病の予防について 衛生統計

(薬事監視員(技師))

試験器具等の正しい扱い方及び基礎的実験と理論の実際について

(主 事)

伝染病疫学調査について 伝染病媒介昆虫について、公害の現状と将来 全国の食品・環境関係の営業所施設の現状と将来のあるべき姿 予算要求の仕組み(業務遂行上) 事務処理の扱い方

(技師(薬剤師))

沖縄の公害問題とその対策について 沖縄のハブ問題とその対策について

(市 町 村)

成人保健(2) 環境衛生(3) 老人福祉(2) 予防衛生 公害行政(3) 伝染病予防 食品衛生(2) 畜産公害(2) 各種病気の対応策 アンケート調査の手順 医学の基礎知識 公衆衛生看護(業務計画等) (2) 保健統計の分析・まとめ方(2) 水質行政 公衆衛生(法規を含む) (7) 衛生関係の補助金制度(2) 各職種混合の地域保健協議会の編成 各分野の最新情報吸収のための研修(2) 県と市町村の役割分担について 県の市町村指導の強化 地域衛生組織のあり方等について

別添 2 専門的な事項 (保 健 婦)

発達心理学 乳幼児発達のチェックポイント (11) 乳児の運動機能発達(異常の早期発見)(4) 早期に異常を発見した乳児の訓練法(4) 三歳児1歳児健診時の遊具の意義 乳幼児の発達への働きかけの方法 乳幼児の神経的発達のみかた(6) 組織づくりにおける保健婦の役割 地区組織活動(5) プライマリーヘルスケアのとりくみ(2) 対人保健サービス要領 保・助・看の業務と法的責任(2) 農村における健康管理(2) 問題解決の方法・方向 保健婦再教育(3) 栄養問題に関する具体的指導法 衛生教育の方法について(17) 衛生統計の活用法 (3) H₂O抗原について(2) 成人病リハビリ(13) 成人病対策(20) 精神衛生とそのリハビリ(15) 心身障害時の療育指導(5) 自閉症・言語発達遅延児の保健指導 結核 伝染性疾患と予防接種について 救急法(2) 難病と看護職のかわり カウンセリング ねたきり老人看護

(リハビリ) (10) グループ療法 遺伝相談(2) 働く婦人の健康(2) 眼の健康 葉草の効果(2) 公害(2) 受胎調節実施指導(4) 赤ちゃん体操 妊婦体操 安産教育 老人保健(5) 母子保健 (12) 他県の視察研修 臨床実習 実習生受け入れのための教育指導 老人病 難病 公害病 小児慢性疾患 糖尿病の保健指導 漢方療法について 食品交換表を使用時のカロリー計算 成人病指導のための塩分測定(2) 精神障害者へのアプローチ 精神障害者の社会復帰 思春期の精神衛生相談 他県の視察研修 臨床実習 実習生受け入れのための教育指導

(衛生監視員)

大気汚染検査(4) 騒音試験(2) 水質試験(4) 飲用水検査(2) 水道施設(2) し尿浄化槽の現状と将来について(4) ビル管理法・環境測定 (3) 脂質試験 添加物分析(6) 食品化学(4) 微生物 食中毒細菌検査(2) 伝染病X線装置と防疫 そ族昆中(4) 基地関係(2) 文書事務 (2) 行政法(2) 指導者養成研修

(技 師)

食品添加物の検査方法(3) 食肉検査における病理学的検査法 農薬の残留検査 浄化槽の水質検査(建築法) (2) 衛生教育 標本作成(スライド) 技術(公害)(2) 悪臭物質定量分析 食品化学 水道水試験(2) ハブに関する事(保健所担当者対象) 医事・薬事に関すること 食中毒細菌の検査

(臨床検査技師)

レプトスピラ検査法 ウイルス疾患の抗体価検査法 生化学検査(2) 血中・尿中重金属の定量法 気中鉛の測定法 細胞診(2) 細菌検査 輸血検査 労働衛生・作業環境などの技法・測定法 農薬散布による人体への害 形態学的なもの

(放射線技師)

放射線医療監視員研修(3) 結核研究所管理コース(2) ポジショニングの取り方 測定技術実習 断層撮影の基礎 直接及び間接胃

X線撮影 直接胃撮影 じん肺撮影法 超音波透視技術

(精神衛生相談員)

衛生教育 精神衛生(ケースワーク)(2) 精神衛生(グループワーク)(2) 精神衛生 相談員 認定講習 精神病 地域精神衛生の理論と実際面 学校における精神衛生管理 精神医学 ソーシャルワーク 精神医学 心理療法 心理テスト カウンセリング 医療チームのあるべき姿について

(栄養士)

全国行政栄養士研修会 公衆栄養計画コース 集団給食施設指導評価等 離乳食・幼児食・妊婦食・成人食について各保健所を同時献立で実習指導 本土の保健所栄養士の栄養相談指導のあり方・栄養教室・母親学級等の視察病理学・解剖学の基礎 病気と検査 公衆栄養計画の基礎及び評価等 体力と栄養に関する知識及び技術 栄養に関する統計 地区組織作りについて 栄養相談の問題点 母子栄養行政 乳幼児期の食生活 妊産・授乳婦の食生活 地域保健と食生活

(医師)

肺癌診断 肺癌・TB以外の肺疾患 TB 循環器研修 癌

(防疫係)

国立公衆衛生院の衛生教育コース 衛研の各専門官の講義 細菌関係

(統計係)

統計調査の企画と作成 統計の分析 統計図表の作り方

(歯科衛生師)

保健指導・衛生教育に関する技法(2) 公衆衛生現任歯科衛生士の再教育 口腔衛生の実技面に関する講習会 妊産婦の歯科保健指導の実際 パネル作成法 予防歯科学

(歯科医師)

歯科衛生一般 小児歯科 フッ素のウ蝕抑制効果について ウ蝕と全身的疾患との関係について 放射線が人体に与える影響について 生活歯髄切断後の乳歯 歯根の吸収について 笑気吸入鎮静法について

(薬事監視員(技師))

薬事・毒劇物・麻薬覚せい剤等・医師等保助看法について

(主 事)

伝染病感染経路及び病原微生物について 伝染病の防疫対策について

(技師(薬剤師))

医薬品の成分分析に関すること 健康食品の実質的効用と成分について

(市 町 村)

騒音・振動防止対策(3) 騒音・振動測定と分析(2) 騒音・振動の人体に与える影響 水質汚濁防止(2) 水質汚濁測定と分析(2) 廃棄物処理(6) 浄化槽の原理(2) 排水処理(2) 簡易水道 畜犬行政 悪臭防止実務(3) 公害事例研修会(2) 防疫について 予防接種(2) 学校保健・学校給食 乳幼児の運動・精神発達(3) 栄養学(妊婦・乳幼児・成人) 保健所業務について(2) 障害児の家庭教育について 保健指導の具体的方法論 個別支援法(面接技術) (2) 成人病に対する専門的な知識 法律の運用面における研修 特に公害における現場指導の具体的方法 保健婦業務のあり方(市町村と保健所の専門化・分化の問題) 公害行政における県および各保健所・研究所との連携のあり方 HB 抗原・抗体について(管理のあり方) 対人・対物衛生の把握方と仕事の進め方

別添 3 疫学調査および衛生教育の現状

(保 健 婦)

健康体操を公民館で毎週一回行っている 成人病予防について 乳児の離乳食講習会 むし歯予防について 貧血検査の結果・衛生教育の必要な方に対してパンフ作成・映写・貧

血のための料理講習会を行った 結核サーベイランスと患者管理

(衛生監視員)

学校・事務所に対する衛生教育(2) 食品衛生(地域住民の疫学調査)(2)

(技 師)

組合・団体(学校)相手に食品・環境衛生教育を行っている 映写フィルムによる高校生対象に三悪追放活動 医薬品販売業及び従事者における研修および講習会(映写や講演)

(統計係)

琉大保健学部保健学科 那覇・コザ両看護学校の実習生を対象に管内における人口動態統計調査の結果から得られる人口動態統計について説明

別添 4 収集したい情報
(保健婦)

疾病統計(3) 伝染病 健康に関する知識(2) ハブ 地区疾病分類 保健所に対する意識 地域別の疾病状況・死因状況(5) 結核り患率の高い地域の実態調査・原因追求 麻疹の自然罹患の傾向について インフル等市町村での予防接種事業等の予測状況を早めに知りたい インフルエンザの流行状況と接種をうけた者の罹患状況・傾向 伝染病の中間宿主となるものについて 保健問題 住民の食生活の実態 健康に関する知識(4) 住民の保健行動・ヘルスニードに関するもの 精神保健面でのニード 環境汚染の妊婦に及ぼす影響 農薬公害(野菜の選び方)(3) 野菜・肉類の農薬およびPCB汚染度(2) 潜在している公害について 地域周辺の魚の汚染度(PCB・合成洗剤ほか) 筋骨格系及び結合組織の疾患と飲料水との関係 喫煙状態と肺ガン及び他の呼吸器疾患との関係 シンナーと家族の崩壊・予防など 世界の家族計画の方法 風疹の免疫の頻度 低体重児の発育発達の状況について(2) 心身障害に関するもの(2) 成人病(2) 脳卒中発作者の平均年齢の推移 脳卒中対策によって寝たきり患者の減少効果 高

血圧者の治療状況の推移(2) 葉タバコ農家の健康状況について

(衛生監視員)

赤土汚染と海産物被害 タバコと健康被害について 食中毒・赤痢(3) 農薬中毒 牛乳中残留農薬 統計資料

(技 師)

出店に対する保健所の対処 そ族昆虫の分布 図作成 ハブに関すること(特質・性格・行動などについて) 他府県の疫学調査等について

(臨床検査技師)

○疫学調査活動について; 集団検診と事後処理についての全県的総合的な検討 集団検診による全県的なデータの作成 沖縄における死因とそれらの人々の生活環境(例・農村か都会か・サラリーマンか自営業か) 沖縄における作業環境の実測値 沖縄における成人病予防のための基礎データの集大成 沖縄の食生活と血圧について

(精神衛生相談員)

精神障害者に関する情報一般 登校拒否児についての調査 非行児・登校拒否児にみられる思春期心理特性について 市町村および地域における保健衛生の状況と実態

(栄 養 士)

長寿者についての食事 迷信に近い食事

(医 師)

情報分析のための母集団情報 結石 各種悪性新生物 破傷風

(防 疫 係)

東南アジア諸国の感染症 県内のいろいろな組織活動の状況 県内のいろいろな疫学調査の資料

(歯科衛生士)

各保健所の取り組み状況 歯科衛生士に対する

認識の状況と実態 衛生面(口腔衛生も含む)の状況と実態 地域社会の構成及びニーズの状況と実態

(歯科医師)

沖縄県内の班状歯の分布状況 沖縄県内の飲料水のフッ素濃度 フッ素塗布によるう蝕の抑制効果について 乳幼児におけるう蝕がその後(10年後および20年後)の全身の発育および成長に与える影響について

(薬事監視員・技術)

保健情報・医事薬事・麻薬等について各機関からの情報

(市町村)

○疫学調査活動について; 県内老人福祉の各地域別の活動状況 伝染病の発生状況(外国国内、県内) 伝染病について(感染源、感染経路、感受性と免疫) 母子管理をどのようにするか?(住民のニーズについて) 地域住民のヘルスニーズについて 各種疾病主に成人病・結核の疫学的領域について 疾病の慢延を防止するためのグループ指導の実際について 国保・社保等からの疾病内容 健康づくりの技法 そ族・昆虫に関すること 歯科衛生に関すること 成人病に関すること(疾病分類など) 公害意識について 地域保健にかかわるすべての情報(気象・地理・人口構成・就業構造・医療・環境など)

別添5 必要な衛生教育

(保健婦)

成人病予防→一般住民・老人・主婦(28) 成人病とタバコの害について(2) 成人病と食生活の啓蒙 成人病検診時の食事指導 住民の健康教育 老人の健康管理→老人(7) 食生活指導(7) 日常の衛生的環境づくり 衛生教育の普及(4) 青少年問題 タバコの害と健康障害→中・高・大学生 寝たきり老人の家庭看護 医療機関の利用等→成人・婦人会・老人会 保健業務に関するPR 地区診断→地区婦人会 有志健康体操 男女の平等性(風習改善策を県で考えてもらいたい) 学級活動(2) 家

庭婦人と労働 乳癌の自己検診法→婦人会(2) 家族計画 家族計画と結婚生活→高・大学生青年会(2) 婚前教育・青年学級等の開催 子供の心身の発達・親の対応のしかた(2) 乳児相談・乳幼児健診における発達・躰など(3) 育児全般(5) 障害児へのとりくみの映写 更年期に関する映写 心の健康 精神障害者に対する偏見を取り除くための啓蒙 DM教室→DM

(衛生監視員)

し尿浄化槽の取り扱い(4) 食中毒予防(2) 営業者に対する衛生指導(3) 細菌が人体影響をおよぼす経路 食品衛生(2) 環境衛生集団指導(7) 生物・化学的検査

(技 師)

食肉業者を対象とした食肉・家畜の病気 食品・環境衛生に関する法律を一般に知らせる(2) 老人・中高年令層の衛生教育が不十分な者に対して、昔からの医療に対する偏見をなくするような活動 尿浄化槽の利用者等に維持管理等について 化学性食中毒に関する事 残留農薬について

(臨床検査技師)

健康診断の必要性(2) 高血圧の予防方法(2) 各市町村集団検診担当者に対する保健衛生に関する予備知識(2) 寄生虫(鉤虫病・ふん線虫)に対して全市町村でとりくんでほしい(2) 病気の認識と予防・栄養指導 貧血 合成洗剤と母体食品に含まれるソーダ(Na)類と母体

(精神衛生相談員)

精神衛生の啓蒙・普及→中高校生・住民(6) 子供の発育過程における精神発達の特徴→母親 人格形成に及ぼす要因について

(栄養士)

これからの保健食について(年代・労働・性別に)成人病予防のための衛生教育

(医 師)

成人病予防(2) 食品衛生 衛生教育専門官の養成 タバコの害 酒の害

(防疫係)

(統計係)

環境衛生→し尿処理業者

(歯科衛生士)

口腔衛生教育→母親学級・老人学級・妊産婦地域住民(2)

(歯科医師)

口腔衛生について→乳幼児・小学生・妊産婦

(主 事)

疾病と生活について→特に婦人 伝染病とその予防対策→市町村の関係職員

(市 町 村)

家畜の衛生管理の方法→畜産農家(2) そ族昆虫の生態ともたらず病気→一般予防接種について→中高生女子 店内だけでなく周辺の清掃面での指導→風俗営業 成人病予防等の具体的な教育→一般成人(2) 公害防止思想及び自然保護育成→全市民 タバコ・人工中絶など衛生思想の普及→中高生 乳幼児のむし歯予防→保育者 健康管理の必要性について→住民 自己健康管理ができるように妊娠・出産・育児に関するもの(社会制度も含めて)→思春期

別添 6

必要な資料

(保健婦)

VTR(6) 映写フィルム(28) 映写機(12) プロジェクター(7) パンフレット(28) リーフレット(8) 人体模型 模型(3) 基礎資料(2) 統計資料(4) 国保関係の資料 成人病関係の資料(2) 食品群別塩分量 食品群別Ca量 レセプトの分析等 視覚教育に必要な図表 ポスター(7) パネル(8) 食事指導用成人病食などの見本(4) 1歳半・3歳健診時の絵カード 歯ブラシ

(衛生監視員)

スライド(10) フィルム(映画)(10)・パンフレット 浄化槽模型 調査資料 統計資料(3)

(技 師)

スライド(6) 模型 パンフレット(2) 実物 映写機 文献(3) 水質検査器具

(臨床検査技師)

視聴覚機器(2) 合成洗剤に関する資料 人材(各市町村連絡会議等をやってもらいたい)

(精神衛生相談員)

ビデオ機器 映写フィルム等(3) パンフレット(2) リーフレット・小冊水 パネル 講師健康展(心身両面からの)はいかがでしょうか?

(栄養士)

スライド(2) 映写 パネル ポスター リーフレット フードモデル 図書

(医 師)

スライド(2) ビデオテープ(2) 映写用フィルム(2) テレビ パネル

(防疫係)

16mm映写機 スライド フィルム OHP

(統計係)

し尿処理業者のリスト 処理内容 処理貯蔵所の図面

(歯科衛生士)

視聴覚機器・フィルム類(2) パンフレット・リーフレット 模型、見本 図表、統計資料

(歯科医師)

スライド 映写機 パンフレット う蝕が全身諸器官に与える影響についての具体的な資料

(主 事)

各伝染病について症状や染経路・予防・防疫対策等の基礎的なパンフレット

(市 町 村)

老人に関する高血圧等の基礎的な治療に関する資料・映写機・フィルムなどの視聴覚機器
ポスター・パンフ・リーフ・パネルなど 資料はともかく学校現場の教師（養護だけではない）の健康に対する教育が必要 資料はともかく関係機関・特に保健所との連けいが必要

別添7

その他

(保 健 婦)

合成洗剤について基本的な事の勉強会 石けん講入のための県や関係機関の対策 県および保健所に衛生教育課(班)の設置 医事関係図書館再設置 各保健衛生関係者の再教育機関の設置 衛生教育開始時の人集め方法 地域組織育成の方法 自宅や職場近くで衛生教育をうけられるような配置 保健所・結核相談室の保健婦業務全般についての研修 沖縄の公衆衛生活動についての歴史的な背景についての講演か研修 問題の把握の仕方・分析 etcのそうさの研修 離島在職者に研修等の配慮

(衛生監視員)

衛生教育について一言：○技術や方法の問題はすでにない 衛生教育の場・時を組織的にタイムリーにやるための意志の疎通が欠落している事が問題であろう ○季節に応じた、場所に適した機会を促え団体、組織、市町村と連けいして充実した内容の衛生教育を行う為の現実的な方法について実効の上のようなイニシアチブを取る部所の設定が先決である ○知識は職能が十分に教えてくれているし、少ない予算でもまあ機能も揃っている ○衛生教育の重大さを本気で考えているのなら公衆衛生の第一線で苦渋する保健所に人と予算とを与えよ！

研修訓練機関の記置について：保健所業務は逐年増大し、特に最近社会的問題として提起されている公害問題、環境衛生問題、化学物質並びに病原微生物による食品汚染或は食品添加物に関する諸問題又は医薬品及び毒劇物事故、成人病対策、精神病対策等すべて専門

的知識に基づく科学技術行政を要求されるのが保健所行政である。このような業務を科学的根拠に立脚して迅速かつ適確に処理し、行政効果の高揚を図るためには、それ相当の専門的知識と技術を身につけておくことが要求されており、公衆衛生部門においても研修訓練機関の設置を要望します。

(技 師)

観光立県の海についての知識（公衆衛生）を十分に多くの住民が知っておく必要がある。
例：貝毒や魚毒の問題に対する対策

(精神衛生相談員)

精神衛生思想普及を目的とするためには、地域社会全般を対象として、まず関係機関（職員）組織への働きかけを中心にして取りくみ巡回相談や講演会あるいは施設見学などの行事を計画的に行ない、障害者に対する理解を深めていく。一つの手段として家族（障害者を含め）が中心となった組織づくりを形成しその活動を浸透させていくことにより、地域社会の中での理解を確保することが大切なことと思われる。

(防 疫 係)

各保健所とタイアップして各市町村の公衆衛生従事者の資質向上。各保健所とタイアップして学校・婦人会等に対する衛生教育の強化また保健所職員、特に駐在保健婦に対しても縦の連携プレーのみではなく、教育庁と環境保健部等の横の連携プレーの強化

(市 町 村)

○現在、予防接種を担当しています。それについての知識はすべて本からのもので、よく理解できないものが多い。その1つの原因としては、予防接種についての研究・疫学的面その他あまり、進んでいないように思われるが、しかしこれは私自身の勉強不足からくるものかもしれません。それを補うには新しい情報知識を提供してくれる場—研修などが必要である。確かに公衆衛生学会の場などで、時々予防接種に関係したものはあるが少ない。

あれだけの短い時間では十分ではない。また疑問に思うのは公害関係や母子関係の研修が多い割には、予防接種に関する研修が全くないということである。

○公害・そ族昆虫・畜犬・一般廃棄物(ごみ)墓地埋葬に関する仕事を担当している者ですあまりにも業務範囲が広く、なかなか収集がつかない状態ですが、専門的な事より、教養程度の研修を数多くやってほしい。

○現在市町村に保健婦が15~16名いるが、保健婦業務が確立できるように県の指導を強化してもらいたい。

○市町村保健婦に研修の通知をしてもらいたい、特に要望する研修は現在保健所の保健婦だけに行っている「遺伝セミナー」をぜひ市町村保健婦にも受けさせて欲しい。理由→母子保健業務の窓口が市町村が主体になりつつある。遺伝について相談されたとき、具体的な助言ができるようにしたい。

○市の保健婦になってから、まだ1年7ヵ月しかなくてないため、業務になれるのに精一杯で、行動の中で、マクロ的な視野に立って仕事を進めていくことができない。だから適切なアンケート解答ができないと思う。

II、アンケート調査の企画について

(1) 調査企画の主体

環境保健部各課の業務に直結する研修については、それぞれの担当課内で企画され、実施されるが、公衆衛生全般についての素養、専門職種の基礎・応用学科・および市町村の公衆衛生・公害防止関係業務に係わる研修については、環境保健部のどこか適当な部署が大局的な見地に立って一元的に推進する必要があると判断して、敢えて公害衛生研究所から発案し、伺いを立てた。

結局、今回は臨時に公害衛生研究所が企画実施・集計・報告を行うことになったが、今後県内の公衆衛生・公害防止に関する研修については、長期的展望に立った研修の調査とそれに基づく企画と推進のための一元的な組織機能が必要と考えられる。

(1) 調査対象について

今回は、諸制約を勘案して、保健所職員と市町村吏員に限定して調査したが、今後の本格的調査においては、県内のすべての公衆衛生・公害防止関係業務従事者を網羅して調査することが望ましい。その際、職種等調査対象の規定を十分に吟味して、調査もれ、または重複・逸脱のないように努めなければならない。

(3) 調査内容について

今回のアンケート調査は、事前の準備期間が短く、調査要領が充分検討されないままに実施されたために、予定された調査対象全体の意向や研修に関する実績を十分に明らかにすることはできなかった。

今後、本格的調査を企画するに当たっては次の諸点に留意する必要がある。

- ① 調査対象の総数を把握する。
- ② 調査対象の年齢・性・職名・勤務年数など必要な情報が得られるような設問にして無記名とする。
- ③ 過去における研修の状況調査については、研修の定義もしくは分類を例示して、混同・重複・逸脱のないように配慮する。
- ④ うすれた記憶に基づく情報の収集とその取り扱いについて事前に配慮する。
- ⑤ 将来の研修希望調査については、直接職務に関連した専門的事項と、公衆衛生全般・公害防止全般などの基本的事項に分けて設問するなど、環境保健部の現在および将来の研修計画に直接活用できるように配列する。
- ⑥ 市町村吏員や民間団体の職員については、その外、統計学・心理学・法律・行政など一般教養に亘る項目についても調査しておくことが望ましい。
- ⑦ 直接職務に関連した専門的事項に関しては、担当課・関係機関との連携を得て設問を吟味する方が望ましい。
- ⑧ 設問の形式に関しては、極力簡明化して○×式回答を求めるのもよいが、他方で、独自の意見が開陳できるような設問も充分用意すべきである。

⑨ 日常の職務とは関連のうすい基礎的事項に関しては、概念を熟知してない項目

もあり得ることから、努めて多数例示して啓発した上で設問するなど、アンケート自体が教育的役割を果たすように企画すべきである。

⑩ 多因子解析が迅速にできるように、パ

ンチカード法を応用するなど、項目を整理する必要がある。

(4) 回収率を高めるために関係機関との十分な合議と協力を得ることが最も重要である。